

令和元年度第9回 熊谷市総合戦略有識者会議議事録	
日時・会場	令和元年6月27日(木) 13:00～ 熊谷市役所議会棟 2階 第1委員会室
次第	1. 開会 2. 議題 (1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について (資料1・2-1・2-2・2-3・3) (2) 本年度の取組について(資料4) (3) 第2期熊谷市総合戦略について(参考資料①②) (4) 今後のスケジュールについて 3. 閉会
資料	【資料1】 平成31年1月1日住民基本台帳人口を踏まえた将来推計人口 【資料2-1】 熊谷市総合戦略の基本目標別のKPI 【資料2-2】 くまがやで暮らす(転入・定住促進の取組状況) 【資料2-3】 2010年地域経済循環 【資料3】 地域創生に係る国の交付金等対象事業の成果について 【資料4】 令和元年度の取組について 【参考資料①】 まち・ひと・しごと創生基本方針2019(案)について 【参考資料②】 第3章基本目標別の施策
議事録	
委員	(1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況
事務局	(2) 本年度の取組について(資料4)
委員	・事務局より資料に基づいて説明が行われた。
事務局	・意見・質問は以下の通り。
委員	(1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について
事務局	(資料1・2-1・2-2・2-3・3)
委員	資料2-1、基本目標の雇用促進の就労支援について、女性就労率65%で、これは進捗が③の統計上実績値の把握が不可能となっているが、なぜ不可能だったのか。
事務局	平成27年度の国勢調査による率の為、まだ新しい国勢調査が実施されていないので、現時点把握が不可能なので③とした。
委員	その下の平成22年とは、前回の国勢調査に基づいた数字なのか。
事務局	そうです。
委員	その国勢調査の結果はいつ頃出る予定なのか。
事務局	平成32年度に次の調査を実施するので、その結果となる。
委員	資料4について、【継続】【拡大】【新規】となっているが、表示の仕方としてどうなのか。二枚目の「中心市街地活性化活動支援事業」について、実際に中心市街地

事務局	<p>活動と計画とのかい離があるのか、ないのか。実情はまだ空き家があるので気になっている。</p> <p>表示方法についてはご意見を賜り、順次対応していく。中心市街地については、シンボルロードの拡大として記載をしているが、空き家との直接の関係はないので、改めて回答する。</p>
委員長	<p>出来れば資料1から3の間で質問・意見ををお願いします。</p>
委員	<p>事前に質問の仕方を言っていたきたい。</p>
委員長	<p>説明が行き届かずすみません。改めて、量が多いので、資料1から3の間で質問をお願いします。</p>
委員	<p>資料2-1の人口動態について、先ほど色々効果を上げている所があると説明があったが、自然動態は評価が難しいと思う。社会動態は、単純に熊谷に移住したい人を転入数、出ていく人を転出数として考えると、平成22年から転出が多く、全体的に熊谷市の魅力を理解してもらう前に、数値に現れている。戦略会議の考え方も、根本的な部分を解決しなければならない。熊谷の首都圏における位置づけ等、大きな視野の中から見つめ直して戦略を立て直す必要がある。</p>
事務局	<p>個別の事業の成果を見ると、固定資産税の減免等、色々な助成を行っているが、このようなものが無ければ更に転出が多くなり、転入が減り、結果的に人口が減ることが予想される。数字では出てこないが、熊谷は学力日本一に取り組んでいるが、そういうプラスのイメージ戦略は、今後も総合戦略の策定にあたり前面に押し出す必要があると思っている。</p>
委員	<p>KPIの限界も一つの理由だと思う。理想状態をまず設定し、未来の指標がどのようなことなのかを常にやっておかないと、中々達成しないと思う。KPIは悪く見れば手っ取り早い指数だけやる事も可能だが、本質的なものは未来の指標をしっかり設定しないと難しい。早くバックキャストを導入しない限り無理だと思う。データベースがあるのに何故利用しないのか。今熊谷の知名度は県内4位で、魅力度は11位である。ところが、若い人たちはここへきて住みたい、仕事をしたいと盛り上がっている。約300から400名の方々の波及効果はもの凄く大きいと思うので、データベースを良く見て、現状をキャッチすることが必要だと思う。化学薬品の一業種に偏した景気に頼っている。ただし、製造業や従来のところも健闘している。しかしそれは大会社のみで、中小企業は数も減り、出荷額も減っている。そこは工業センサスとの問題であり、二つの指標を見ないと出てこない話である。工業センサスの新しいデータなので、そこを加味して、熊谷全体の循環率を説明しないと正しい説明にはならない。細かいところのチャンスを掴む事が必要である。</p>
委員長	<p>基本的にはデータに裏付けられたものが必要である。次の総合戦略にも反映出来ればと考えている。</p>
委員	<p>(2) 本年度の取組について (資料4)</p> <p>現在の熊谷地域の有効求人倍率は、1.10となっている。28年8月から1倍を超えた状況が続いているが、ここにきて下がってきている。さらに、内容的なものを見ると、業種別でひらきがある。事務系や製造系、建設業は違う現状が出ている。今</p>

	<p>年度末に卒業する高校生の動向については、今現在の調査によると、求人件数は270、求人数は772となっている。前年度と比較をすると、件数でプラス57、求人数でプラス101という状況である。特に熊谷地域は中小企業が中心の地帯で、大変困っているのが現状である。資料4の中にも出ているが、企業誘致は確かに良い事だと思うが、労働者にこの数字が伴っていなければ共倒れの可能性が出てくると感じている。住みやすい地域を作り、そこに労働力や転入者を増やす政策を打ち出さないと、五年後、十年後が大変なことになると感じている。頑張ってもらっていることは分かるが、今後はもう少し先を見据えた計画をしなければならない。ワールドカップや来年のオリンピックもいいが、もう少し違う方向、先を見据えて動いていかなければならない。少子高齢化が進み、働く世代も少なくなっているため、これから経済を発展させていくためには労働者が重要だと思うので、その対策を考えて意見をあげてほしいと思う。</p>
事務局	<p>企業誘致の奨励金制度は、あくまで企業を誘致することがメインである。新しい企業が転入してきた時、熊谷の市民になっていただいた従業員の方にも雇用の奨励金制度もあるが、まだまだ利用が少ないのが現状である。今後はその点にも焦点を当てて、利用していただけるよう施策の浸透にもPRをしていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>この秋から世界規模の大会が開催されるので、我々も周到に準備をしておき、それを成功させたいと思っている。それを踏まえて、日本中から沢山の方が熊谷を訪れて、熊谷の文化交流の施設を見ていただく機会があると思う。ラグビーを見る方はスポーツ関係に携わっている方が多いと思うので、まずそこで知っていただき、更に施設を活用してより多くの人に来年度以降も来ていただけるよう、熊谷市ではスポーツコミッションを立ち上げ、スポーツを中心にトータルコーディネートをして、トータル的にサービスを行う組織を作っている。その組織をフル活動し、更にワールドカップ開催を踏み台にして、交流人口の増加を図り、スポーツを中心とした街づくりを進めていきたいと思っている。資料2-1の人口動態のところで、熊谷市は産まれてくる子どもが少ない状況である。企業誘致の助成の対象が、今までは製造業や運輸業を中心に行ってきたが、二年前からは産婦人科等の医療機関もそのような項目を作った場合は助成する制度を設けている。実際それを受けていただき、ベッド数を増やしたり、産前産後のお母さんに対しての課題も含めて、より子どもを産みやすい、育てやすい環境の整備をし、熊谷が子育てに適しているところをPRしていきたいと考えている。</p>
委員長 事務局	<p>高校生と中小企業との就職のマッチングについての補足はあるか。 当市は、企業との包括連携協定を締結しており、その中の事業で例として、妻沼高校の生徒を対象に、市内企業や地域機関と連携して合同企業説明会を開催している。地元の高校生に、地元で就職してもらおう取り組みを行っている。</p>
委員長 事務局	<p>今年度の予定は。 今年度は個別のものは予定していないが、北部地域の推進協議会の中で、合同で高校生向けの企業説明会を開催している。</p>
委員	<p>資料4「新幹線らく賃通勤事業」について、先日テレビで放映していましたが、40歳未満で二年間という縛りになっているが、もう少し緩和出来れば使いやすくなる</p>

	<p>と思う。子どもの教育費と家の負担が大きいのは、40 歳代・50 歳代で、家計的にきついのではないかと思う。二年間という縛りもあまりにも短いのではないか。企業の転勤のインターバルは三年から五年で、私が前に勤めた会社は、新幹線の補助で熊谷は7割が会社負担で3割が個人負担だった。恐らく、月に2万から3万くらいが自己負担になっていると思うので、それを目安にして条件が緩和出来ればもっと普及するのではないかと思う。検討をお願いしたい。</p>
事務局	<p>平成 28 年から始まり、制度の導入当初は知名度もなく、利用状況は停滞していた。平成 30 年度の途中から急に利用が増え、補正予算を計上し、平成 31 年度は当初予算 600 万円と大幅に増額を見込んでいる。それだけ利用が浸透してきたと受け止めているが、金額や基準については検討させていただく。</p>
委員	<p>資料 2-2 の中に住宅リフォーム資金補助制度の申請が 32 件あるが、それと資料 4 の住宅リフォーム支援補助事業は因果関係があると思うが、この予算や要綱の具体的な説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>住宅リフォーム資金補助事業は、今年後からの新規事業として 4 月 1 日から受付を開始している。補助率は、税抜きで工事費用の 5%に相当する額であり、限度額が 10 万円となっている。10 万円は、まち元気熊谷市商品券で交付している。補助の対象の工事は、市内の施工業者が行うこと、工事費用が 20 万円以上であること、2020 年 2 月 29 日までに工事が完了することが対象となる。申請出来る人は、熊谷市内在住で住民票がある方、対象住宅の所有者であり、かつ住んでいる方、市税に滞納がない方となっている。予算は 2000 万円です。</p>
委員	<p>申請の上限はあるのか。</p>
事務局	<p>200 件です。今はまだ 30 件なので余裕があります。</p>
委員	<p>資料 4 「妊婦歯科健康診査事業」について、熊谷市内のみの歯科医院だけなのか。母子手帳と共に受診券の配布を行うと伺ったが、妊婦さんのかかりつけの歯科医院が近隣市だった場合はどうなるのか。</p>
事務局	<p>4 月から 9 月までに母子健康手帳交付を交付された方については、今後 8 月から市内でチラシを配布し、すでに母子手帳を配布された方にお知らせをしていく予定になっている。歯科医院は市内となっている。</p>
委員	<p>その際は、歯科医院の一覧表の配布をしていただけるのか。</p>
事務局	<p>チラシに一覧表があるかは把握していないが、恐らく関連歯科医院の名前が掲載されることになると思う。</p>
委員	<p>資料 4 「市内循環バス（ゆうゆうバス）の利便性向上」について、イオン熊谷やくまびあの中にも私どもの広場があり、こちらを経由する路線、バス及び市内循環バスの試験運行を行い、市民のニーズを把握するとあるが、完全にくまびあは停車するのか。ニーズが少ないと見送る話も聞いている。車が一台しかない家庭はバスが大事で、くまびあの前に停車してもらえるととても便利になるのでお願いします。</p>
事務局	<p>くまびあのところ環状線が開通したことに伴い、二種類の試験運行を予定している。一つは、7 月 1 日から三か月間で民間の路線バスの試験運行を予定している。その他に、10 月から三か月間、ゆうゆうバスで熊谷駅からくまびあを通るルートで</p>

	<p>走らせる事を検討している。その利用状況を見て需要がある方を採用する予定である。</p>
<p>委員長</p>	<p>7月からの試験運行については、時刻表やルートも出来ているので、今委員の皆様にはお配り出来ると思います。これを機に、朝日自動車さんがルートを変更し、三か月間はくまびあを経由し需要を見る実験を行う。</p>
<p>事務局</p>	<p>利用者がいれば継続するので、ぜひ利用していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料4に色々な取り組みが進捗されているが、熊谷に住んでいる方はこういう施策があることを知っているが、これから住まいを探す人には施策を認知する機会がない。周知をしてもらうペーパーを作成しハウスメーカーに置いたり、それぞれの企業に対して、従業員に施策を知らせるように促す等すれば、これから家を買う人や、どこに住むか考えている人に対してのアピールにはなるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在行っている取り組みとしては、都内から地方への移住や定住を希望される方が立ち寄るスポットの「ふるさと回帰支援センター」に、熊谷市の移住定住に関するパンフレット等を置いてもらったり、企業に対しては毎年「御用聞き便」という資料を送っており、その中にも熊谷市が取り組んでいる事業のチラシを同封している。不動産屋等にもチラシを置いている。</p>
<p>委員長</p>	<p>今配布した黄色い資料は、この7月から三か月間試験運行するバスの時刻表と、ルートの路線図です。</p> <p>議題の(1)(2)について、ご了承いただくことでよろしいですか。 (異議なし)</p> <p>(3) 第2期熊谷市総合戦略について(参考資料①②) (4) 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。 ・意見・質問は以下の通り。
<p>委員</p>	<p>今後のスケジュール等の話があったが、平成27年の時の資料を見たところ、策定委員会を開き、熊谷市の各課による策定分科会があり、その後には有識者会議があったと思いますが、この総合戦略有識者会議の設置要綱を見ると、熊谷市の現状の調査研究、将来展望の調査研究、熊谷市の総合戦略に資する活動の検討提案等、ほとんどが検討である。この後に、熊谷市議会全員協議会があり、それは報告、意見聴取になっており、その後にはパブリックコメントがあり、最後に市長決裁となっている。出来れば、最初に市民に選ばれた市長がどういうことをやりたいのかを知りたい。会議もいいが、総合戦略は誰が中心で動かしているのか。市民に選ばれた市長なので、策定と同時進行で市長の顔が見えるように、色々な提案を出来る場所が必要である。市長の考えがもう少し見えるかたちで、市長との連携をとって会議に反映していただきたい。市長が中心にいるという会議のあり方をもう一度再認識していただきたい。市長が何をやりたいのか分からないと市民もついて行けない。各論ではなく、原点に立ち返り市長を中心に作っていった方がいいのではないか。</p>

委員長	作成の事前時点で市長には報告をしながら修正をしていく。最後に出来たものに市長が判を押すだけではなく、絶えず市長の意見を聞きながら、段階をおって作ることが実際のやり方だが、市長の求心力が見えないという意見は市長に伝えたいと思う。
委員	4つの基本目標の中に、若い世代の結婚・出産・子育てとあるが、施策の中では結婚が抜けている。資料でも出生率がかなり低いと出ている。我々の会社も製造業で、30代や40代後半の若手からは、出会いの場がない、という意見が聞こえており、結婚しない人が増えている。結婚をしたくなくて結婚しないのではなく、出会いの場がない、というミスマッチがあるのではないかと。本人たちの問題もあるので難しいと思うが、熊谷市で働いている方達に市でそういう場を設ける等、企業を巻き込む事を含めてやっていくことが一つの考えだと思う。企業を通じてどのような取り組みが出来るかも考えていただきたい。
事務局	熊谷市の現在の結婚支援の取り組みは、市が主体ではないが、埼玉県でAIを使用したマッチングシステムを立ち上げている。協議会の形式になっており、それぞれの県下の市町村が会員となり、運営している。熊谷市民もそちらに登録することで、自分の希望に沿った方とマッチング出来る。売りとしては、ただ出会いの場をつくるだけでなく、具体的に結婚に至るまでに寄り添っていくことをアピールしているシステムである。熊谷の実績はあがっていないかもしれないが、県下でも登録者数が1、2を争う数だと聞いている。そちらの推移を見守りながらも、他の方法でも結婚支援が出来ないか、企業の協力を得る事が出来ないか、検討していきたいと思う。
委員長	市報を皆が見ているとは限らないので、そういう情報は企業を通じて伝わるように、企業が従業員に発信した方が効果はあるのではないかと。周知活動も検討していきたい。
事務局	埼玉県もより強化をしていきたいという動きなので、熊谷市の産業振興部の協力もあおぎながら、企業に直接PRが出来るようにしていきたいと思う。
委員長	掲げる目標自体に、従来は「出産・子育て」だったが、新たに「結婚」を入れた意味は大きいと思うので、次の計画、あるいはそれを具体化するものの中で、他の方法等でも取り組んでいきたいと思っている。
委員	2020年の取り組みの最初の4つの項目をやるためには、過去の人口動態も重要だが、社会の潮流、今の変化をしっかり押さえた上でないと成り立たないと思う。まず人口減少については、果たして地域でイノベーションが起きるのか。新しいビジネスモデルをやるには、地方ファンドと目利きが必要である。そういうことがベースにないと成り立たない。高等学校の人材育成は、行政として何が出来るのか。今はもう引く手あまたで、熊谷に就職しようとする人はいない。しかし必死に引き留めた結果、総合技術専門校の6名がものづくり会社へ来ている。行政として、熊谷の魅力を含めてどういうことをすれば定着するのか、モデルがないと成り立たない。全部にモデルが必要である。全て総合戦略パッケージにしても、ビジネスモデルにしても、その背景をよく分かって理解した上でやらないと難しい。ただし、地域ファンドがあれば何とかソーシャルビジネスはできそうである。NPOではな

	<p>く、社会的なソーシャルビジネスというかたちが今後増えざるを得ないので、予見しないと難しい。驚くほどの技術振興があるので、限りなく今、プラットフォーム型は個人仕様のオーダーメイド商品化になってきている。それに対抗できる技術的な事として何をすれば地元の商売として成り立つのか。そういう潮流も分からないと、良い企業や雇用を沢山創出できる企業が無ければ地域で働く場所がないので大変難しい問題である。SDGsもいいが、最終的には企業とセッティングして、町全体のきれいごとではない地域の持続性を図るためには、どうやったら自分の仕事が残れるか、勝てるか、を掴まないと成り立たない話だと思う。今の方向性だと、人口問題と、技術の促進、技術の急速な変化、持続性のはっきりした地域方針がないと、絵に描いた餅になりかねない。しかしやらないと地方は衰退するので、やることは良い事だと思うが、意見の最初の段階でどう作り上げるかが肝心で、そこを従来とは違う方法でやらないと出来ないのではないかと思う。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>参考資料の①がないのでは。 資料2は参考資料①と考えていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>市長が忙しすぎるのではないか。挨拶まわり等は副市長や幹部が行い、市長にはじっくり政策を考えてもらいたい。熊谷が小学校の再編成として、人口が減る事が前提で小中学校を統廃合する話が出ているが、この近辺では滑川が唯一人口が増えている。近隣の市町村は人口が減り統廃合で頭を悩ましているのに、滑川だけは増えることで頭を悩ませている。何故なのか考えてみると、滑川は保育園の給食を無償にしている。森林公園駅があり非常に交通の便も良く、高速道路のインターも近い。トータルでバランスが良い。もう一つこの近辺で比較的人口が横ばいなのが太田である。太田は教育に力を入れており、スポーツクラブが活発なので、子育てをするには太田と言われている。外国人の受け入れも進んでいる。子育て環境や働く場所、企業誘致、公共設備の充実等、発展している市町村には何かヒントがあるかもしれないので参考にしてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>補足ですが、熊谷市内でも小学校のクラスが2クラスだったのが3クラスになった学校もある。熊谷市内別府五丁目の別府小学校である。以前市長も足を運んだ場所だが、小学校を作るための空き地を、風が通る街並みとして、ミサワホームさんが開発をした戸建てが全て完売し、そこに入居し出産したお子さんが小学校に上がる年頃になり、その小学校に入学し生徒数が増えた。今後も別府小学校は増え続けることを考えると、広い空き地を上手く利用して、戸建てや街並みを作ると熊谷市も人口が増えるのではないか。籠原駅を利用する方は、籠原始発があることで便利だという若い世代のファミリー層が増えてきている。</p>
<p>委員長</p>	<p>アセットマネジメント、施設の統廃合に熊谷市は力を入れてやっていくということで、個別の計画を作成し、基本的には40年の計画だが、まずは10年について考えている。小学校の統廃合の問題は、地域にとっては大事なものだが、それ以上に市長が考えていることは、子どもたちの教育環境を考えた場合、1年生から6年生までクラス替えのないところがどうなのか、と考えながら、子どもにとって何がいいかを考えていかなければならない。地域では、今月の末から地域説明会を開催し、</p>

学校が統廃合になる地区については、学校ごとに説明会等があるので、丁寧に説明をしていきながら、意見を聞きながら進めていきたいと考えている。人口が増えたらどうするのかという話については、随時ローリングしていくので、当然地域によって人口が増えた場合はその都度見直していかなければならないと考えている。今回決めたからこれで40年やっていくというものでもない。当面の10年くらいの間はどのようにしていくのかは、今月の末から地元の説明会を含めて話をしていきたいと思う。興味がある委員の方はお近くの説明会に参加していただきたい。詳細な資料も提示する予定でいる。人口の増加について、籠原駅東側は調整区域なので開発は出来ないが、西側については開発の余地がある。駅に近いので、道路が広がると交通の利便性も上がり、宅地開発も進むのではないかという期待を持っている。

※次回は日程が確定次第改めて連絡

以上